

緑化だより

No.146 平成31年1・2月合併号



サルトリイバラ

新年は1月4日(金)より開園します

- 季節の花(マツ)
- 昆虫の話(水野中は寒くない!?)
- 小さな世界こけ(身近なコケ(1))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ryokka 緑化センター

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

季節の花

マツ

「八千種(やちくさ)の 花は移ろふ 常盤(ときは)なる 松のさ枝を 我は結ばな」

大友家持 万葉集 20 巻- 4501

これを訳しますと

(さまざまの美しい花は、やがて色あせて変わり果ててしましますが、永遠に変わらない常緑の松の小枝に願いを込めて、我々は庭の松を結んで、ご主人の長寿とご繁栄を願って祈りましょう。固く友情の絆を結ぼうではありませんか)

奈良時代の西暦758年、中臣清麻呂(なかとみのきよまる)の家で宴を催したとき詠んだ歌です。当時、松の枝を結び将来の幸福と繁栄を願って祈る風習がありました。

マツはマツ科マツ属、常緑高木で葉は針状です。雌雄同株で、4月頃花が咲き、翌年の秋に球果(まつかさ)ができます。

日本のマツ属にはアカマツ、クロマツ、ヒメコマツ、ハイマツ、チョウセンゴヨウ、リュウキュウマツ、アマミゴヨウがあります。

マツ(松)は一年中、濃い緑色を保ち、暑さ寒さに耐え忍んで厳かに立っている姿から、古くから神の依代(よりしろ)として、心霊が宿り神様が天から降りてこられる木として神聖なものとされました。正月には門松として飾り、歳神様(としがみさま)を迎えます。

松竹梅はめでたいとりあわせで、マツは筆頭となっていることで大変尊ばれて、祝い事には欠かせない、めでたい植物です。つまり

「神を待つ、神を祀る、緑を保つ、葉が二股の股」が転じてマツになったと言われています。

マツは建築、家具、燃料に利用される有用な木です。庭木や盆栽としても、日本人に最も愛された樹木です。

広島県は全国でアカマツ林の面積が最も広く、山に自生しているのはほぼアカマツで、沿岸部に多く自生するクロマツと住み分けています。有名な栃木県那須街道の松並木は、天然林の赤松林14,000本が2km続いています。「とちぎ景勝百選」です。(上村)



アカマツ

昆虫の話

水の中は寒くない!?

冬も本番、雪が降り、池の水にうっすらと氷が張るこの季節。目に付く場所に昆虫の姿はほとんどありません。けれども、氷の張った池の中を探すと昆虫たちがたくさん潜んでいるのです。ゲンゴロウの仲間「ヒメゲンゴロウ」もその中の一つ。彼らは「成虫」の姿で冷たい水中で越冬するのです。

ヒメゲンゴロウは体長1cmほどの大きさのゲンゴロウで、ゲンゴロウの仲間の中では最も普通に見られます。かつては水田という水田、池という池で見られたほどです。現在でも農薬が入っていない池や水田では泳ぐ姿を容易に見る事ができるゲンゴロウの一つです。

彼らは、一年中池や水路などで見る事ができます、池が凍るほど寒い季節でもです。人間が数分も入ってられない冷たい池になぜ彼らはいられるのでしょうか。

その理由の一つは昆虫が周りの温度によって体温の変化する「変温動物」であることです。人間の細胞は体温付近でしか活動できず、冷えてしまうと死んでしまいます。しかし、彼らの細胞は低い温度でも活動することができるようになっています。完全に凍ってしまわなければゆっくりしか動けなくても死んだりしないのです。

もう一つの理由は凍っていない水の温度は0°C以上ということです。水は表面から凍り、凍る前の水は0°Cです。ある程度深さがあると池は完全に凍ることはなく底の水の温度は4°Cより下がりません。4°Cもあれば体が凍ることなく彼らは生きていけるのです。外がカチカチに凍ってしまうような季節でも水の中は凍らない。寒いので天敵も入ってこない。水の中はとても安全な越冬場所といえるのです。

皆さんにもぜひ冬の水辺の昆虫さがしをしてもらいたいなあと思うのですが、冬の池の水はとっても冷たいです。熱中して池に落ち、風邪を引いてしまわない様気をつけてもらいたい所です。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)



池の落ち葉に紛れていたヒメゲンゴロウ



ヒメゲンゴロウ

小さな世界 こけ

身近なコケ(1)

家の庭や、散歩中の道路脇、公園などでも観察できるコケがあります。

地面を見ると、セン類のタチゴケ、コスギゴケをはじめ、ギンゴケ、ホソハリガネゴケ、タイ類のミカヅキゼニゴケ、ジंगाサゴケなどが見られ、樹木の幹に目を向けると、コゴメゴケやサヤゴケ、ヒナノハイゴケなどがよく見られます。これらは市街地の埃を好むコケです。

ギンゴケは、アスファルト道路の隅や、コンクリート側溝の内側、古い瓦屋根などで見られる生命力のとても強いコケです。世界中に広く分布し、富士山や南極でも確認されています。日なたでは、葉の半分からは緑色、上半分は透明なため、その名の通り全体が銀色に見えますが、湿気のある場所では緑色が濃く特徴はわかりにくくなります。

ホソハリガネゴケは、ギンゴケと同じ環境で見られ、混生していることも多くあります。踏まれることのないアスファルト道路の隅では、こんもりとした密な群落を転々と作っていることがあります。葉の中肋(中央脈)は毛のように長く飛び出しています。茶褐色の柄の先には、ウリのような形の蒴が垂れ下がってつきます。よく似たコケにホソウリゴケがありますが、蒴がまっすぐ上向きにつきます。(山根)



ギンゴケ



ホソハリガネゴケ

研修会のご案内

- 1月 6日(日)『春の七草 学んで試食』
七草について学び、七草粥を試食しよう
※ 要予約 (先着 30名)、無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔
- 1月 27日(日)『樹木講座～針葉樹編～』
特徴や見分け方を学び、識別テストに挑戦しよう
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家
埴田 宏
- 1月 30日(木)『ナメコ植菌教室』
植菌を体験し、家庭で栽培しよう
※ 要予約 (先着 30名)、材料費 700円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長
影井 和雄
- 2月 10日(日)『バイカオウレンと
ハルトラノオの苔玉』
苔玉作りに挑戦しよう
※ 要予約 (先着 30名)、材料費 1,500円 (1/4～予約開始)
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔
- 2月 24日(日)『第1回ジャンボ椎茸植菌教室』
植菌を体験し、家庭で栽培しよう
※ 要予約 (先着 30名)、材料費 800円 (1/4～予約開始)
第1回、第2回の両方に参加することはできません
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長
影井 和雄
- 2月 27日(水)『第2回ジャンボ椎茸植菌教室』
植菌を体験し、家庭で栽培しよう
※ 要予約 (先着 30名)、材料費 800円 (1/4～予約開始)
第1回、第2回の両方に参加することはできません
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長
影井 和雄

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

・クラフト作品展 ふれあい湧 ～ 2月24日(日)

(パネル展示)

・ひろしま遊学の森
「四季の移ろい写真コンテスト作品展」
～ 1月27日(日)

・緑化ポスター原画コンクール入賞作品展
2月2日(土)～ 3月10日(日)



「クラフト作品展・ふれあい湧」より

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

・合格祈願「ヤマコウバシ」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料

～ 森林公園・こんちゅう館
臨時休園のお知らせ ～

7月の西日本豪雨のため、当分の間
臨時休園します。
ご迷惑をおかけしますが、
ご理解とご協力をお願いいたします。